



(一財)松本ものづくり産業支援センター

NEWS

第16号

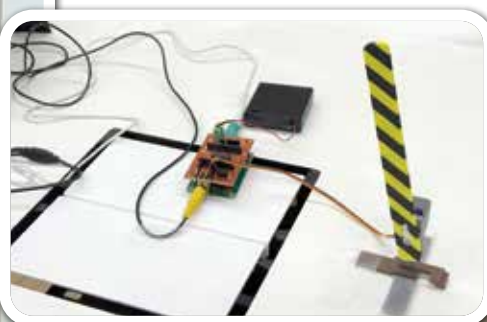
令和8年7月発行



中小企業総合展事業「テクニカルショウヨコハマ2026」(R8.2.4-6) 関連記事 10P



JR松本駅東西自由通路ギター展示
(R8.3-6月 モーリス楽器製造株式会社)



小中学生向け
プログラミング教室
関連記事 8P



長野県松本工業高等学校工具贈呈式
(R8.2.26) 関連記事 11P

ものづくり産業支援のワンストップサービスを目指します

目次

1	特集 中小企業の GX 戦略、 GX が描く未来と、命の源「水」の再定義…	3～4P
	信州大学が進める「アクア・リジェネレーション」 —水から地域と世界の未来をひらく— (信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 准教授：鳥山 香織) (アドミニストレーション本部 特任助教：等々力 将)	
2	新任挨拶……………	5P
	(ものづくり支援担当：小宮山光治コーディネーター、 根橋 聡コーディネーター)	
3	活動トピックス……………	6～12P
	・ 中小企業大学校サテライトゼミ in 松本 『誰にも聞けないプロ営業としての心得』 ～営業の基本から実践ノウハウまで学ぶ～ (2026年3月5,6日)	
	・ R8年度中小企業大学校サテライトゼミ開催予定	
	・ 『忙しいから改善できない』は本当か？』 ～工程改善セミナーを開催しました～ (2026年2月19日) (ものづくり支援担当：相吉 一浩コーディネーター)	
	・ 『小中学生向けプログラミング教室』	
	・ 『生成 AI 活用』	
	・ 『製造現場への 3D プリンター導入のススメ』 (ICT支援担当：野尻 和彦 コーディネーター 宮島 正孝 コーディネーター)	
	・ 中小企業総合展事業「テクニカルショウヨコハマ 2026」出展報告 (2026年2月4～6日)	
	・ 長野県松本工業高等学校への工具贈呈式、成果発表会 2/26 (2026年2月26日)	
	・ アンケート調査実施 (2026年)	
4	コーディネーターの紹介……………	13P
5	サザンガクからのお知らせ……………	14～15P
6	松本市からのお知らせ……………	16P
7	松本商工会議所からのお知らせ……………	17P
8	(公財)長野県産業振興機構 松本センターからのお知らせ…	18P
9	松本ものづくり産業支援センターからのお知らせ……………	19P

1 特集 中小企業の GX 戦略、GX が描く未来と、命の源「水」の再定義

身近な GX 戦略として既に多くの事業所で行われた取り組みは、照明の LED 化が挙げられます。LED 照明は従来の蛍光灯や水銀灯に比べて消費電力を約 50%～80% 削減でき、LED 化はスコープ 2（他社から供給された電気の使用に伴う間接排出）の削減に直結し、確実な GX の成果を生み出しました。

現在、日本政府も「2050 年カーボンニュートラル」と「エネルギー安全保障」の両立を掲げ、GX 推進法のもと、大胆な産業構造の転換を加速させています。しかし、GX を語る上で欠かすことのできない重要な要素が、エネルギー問題の陰に隠れがちであった「水資源」の存在です。

水は生命の源であると同時にあらゆる産業活動の基盤でもあり、製造業における洗浄や冷却、データセンターの熱対策に至るまで、水なくして現代社会は成り立ちません。今、水を「消費し、捨てるもの」から「高度に循環させ、再利用するもの」へとパラダイムシフトさせることが、企業の持続可能性を左右する要因となっています。

水資源の再利用は、単なる節水から、排水処理の高度化による水質の維持、再生水利用による外部依存度低減、そして処理プロセスでのエネルギー回収や熱利用といったサーキュラーエコノミー（循環経済）の実現に直結する取り組みです。

環境省が推進する循環経済への移行加速化パッケージにおいても、資源の有効活用は GX を支える車の両輪として位置づけられています。

今回は、信州大学が進める「アクア・リジェネレーション」—水から地域と世界の未来をひらく—をテーマに水資源再利用の最前線にスポットを当て、技術と社会が融合する新たな水循環のあり方を探ります。

信州大学が進める「アクア・リジェネレーション」 —水から地域と世界の未来をひらく—

○水の研究で世界を変える！～アクア・リジェネレーションが広げる水の可能性～

信州大学は、令和 5 年度、文部科学省の事業である「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択されました。

同事業は、日本全体の研究力を向上させ、新たな価値創造を促進していくために、大学ファンドによる国際卓越研究大学への支援と並行して実施されるものです。

国際卓越研究大学は、全ての分野で世界トップレベルを目指すのに対し、地域中核・特色ある研究大学は、特定分野の研究において世界トップレベルの研究力を発揮することを目標としています。

信州大学が J-PEAKS のビジョンとして掲げるのは、「アクア・リジェネレーションの研究力を核に一歩先のソリューションを共創する大学」です。

本学が世界トップクラスの実績をもつ水浄化や水由来の水素エネルギー関連の先鋭材料研究を核に、研究組織である「アクア・リジェネレーション（ARG）機構」を立ち上げ、研究の卓越性、イノベーション創出、地域貢献を一体的に推進しています。



○アクア・リジェネレーションとは？ ～水の惑星地球の持続可能性に向けた挑戦～

アクア・リジェネレーションとは、水の循環利用や水由来グリーン水素エネルギーの生成・利用など、水を中心とする地球環境再生に関わる諸分野を統合的に捉え、持続可能な水・エネルギー供給を社会に実装していく取り組みです。



世界では、2022年時点で22億人が安全な飲料水を得られていません。また、2030年までに世界の水供給が40%不足する可能性も指摘されています。さらには、気候危機への対応として、CO₂を排出しないグリーン水素エネルギーの利用拡大も重要な課題です。

水を「守る」だけでなく、水からエネルギーを「つくり」、水を起点に産業と暮らしを豊かにする。それが、信州大学が目指すアクア・リジェネレーションです。

○アクア・リジェネレーション機構～長野県内を拠点に 地域から世界の課題まで～

この構想を研究面から推進する中核組織が、信州大学アクア・リジェネレーション機構（ARG 機構）です。ARG 機構では、水浄化、水由来の水素エネルギー生成、先端材料の研究を核に、世界トップレベルの研究者が研究ユニットを形成し、アクア・リジェネレーションの実現に向けて取り組んでいます。

松本キャンパスのアクア・リジェネレーション共創研究センター（ARCH）と長野（工学）キャンパスの国際科学イノベーションセンター（AICS）の2施設を中核拠点とし、飯田市の産業振興拠点施設「エス・バード」も活用しながら、研究から社会実装までを見据えた産学官共創を進めています。

研究ユニットでは、結晶材料「信大クリスタル」による持続可能な水・環境・エネルギー技術、電子とイオンの制御に基づく水処理・エネルギー変換技術、水資源化に向けた新たな分離・回収技術、光触媒研究によるグリーン水素生成技術、先進ナノカーボン分離膜技術などによる水・環境問題への挑戦が進められています。これらは、浄水、環境浄化、希少資源回収、海水淡水化、半導体デバイス、ソーラー水素製造、バイオマテリアルなど、幅広い応用につながる研究です。

アクア・リジェネレーション機構		
手嶋博弥 准教授	大久保 大クリスタルなどによる浄水技術	
杉本 謙 准教授	水素キャパシタによる次世代蓄電デバイス	
久置 隆 准教授	窒素固定/窒素一価 光触媒によるグリーン水素生成	
ロドリゴ・フォルス＝シルバ 特任教授	連続分離 大気中のCO ₂ などによる浄水技術	
足津 健行 教授	安全性な「水素電池」による次世代蓄電	
下置 剛士 教授	水環境を再生する微生物研究	
木村 隆 准教授	再生セルロースなどによる水環境問題の解決	
小川 誠 准教授	結晶材料・高分子材料による新素材開発	
応用分野		
・浄水&環境浄化	・希少資源回収	・バイオマテリアル
・次世代蓄電	・ソーラー水素製造	・環境材料
・半導体デバイス		など

図：アクア・リジェネレーション機構所属PIの代表的な研究内容（2026年6月現在）

所属PI（Principal Investigator）の代表的な研究内容などは表（図）のとおりです。

○松本地域実証タウン～地域発のイノベーションで、世界の未来をひらく～

ARG 機構では、水浄化や水素エネルギーに加え、水系電池、機能性材料、バイオマテリアル、環境再生技術などの研究を展開しています。これらは新製品開発や環境対応、資源循環型ビジネスの創出など、企業との多様な連携につながる可能性を持っています。

信州大学は、自治体や産業界と連携し、水と水由来グリーン水素等を活用した「実証タウン」の形成を進めています。研究成果を地域で実証し、磨き、社会実装へつなげることで、地域産業の振興と世界規模の課題解決の両立を目指します。

令和9年4月には、水関連専攻の大学院「アクアロジー専攻」を新設予定です。水問題が深刻な国々から人材とニーズを受け入れ、国際的な競争と人材育成に取り組みます。

松本地域には、多様なものづくり企業が集積しています。アクア・リジェネレーションの実現には、大学の研究成果に加え、地域企業の技術力、製品化力、量産化・品質保証の力が不可欠です。材料・部材化、装置設計・制御、センシング、データ活用、環境価値の可視化、実証フィールドの構築など、共同研究・共同開発の入口は幅広くあります。

アクア・リジェネレーションの研究技術との共同研究・共同開発にご興味・ご関心のある企業様は、どうぞお気軽に本学担当までお問い合わせください。

松本地域から、水の惑星地球の再生に向けたイノベーションをともに生み出していきたいと考えています。



信州大学 学術研究・産学官連携推進機構 准教授：鳥山 香織

アドミニストレーション本部 特任助教：等々力 将



●根橋 聡

4月1日からものづくり支援担当として、松本ものづくり産業支援センターに勤め始めました。

趣味といいますか、熱中していることは3次元コンピューターグラフィックスの作成です。オリジナルのキャラクターをデザインして、三次元化し、そのキャラクターを仮想空間内で動かします。まだまだ勉強中ではありますが、面白さにすっかりはまっています。ものを作ることが好きでエンジニアになったのですが、仮想空間では現実とは違い制約がほとんど（メモリとか計算速度には制限されますが）ありませんので、自在に想像を広げることができます。ですが完全に自由といわれるとかえってどこからどう手を付けていいのか逡巡してしまうこともしばしばあります。

一方、現実のものづくりは、エネルギー、使用できる材料、時間、コストなどさまざまな制約があってなかなか思い通りにいかないことがほとんどです。どう取り組んでいいのか途方にくれることも多々あります。完全に自由でも、制約だらけでも物事は上手いかないものだと、つくづく思います。そうは言いつても、他の人が達成したもの、自分たちで生み出したものなどのさまざまな技術によって、制約が解消されてかつては不可能だったものを作ることができるようになるのを時代と共に経験してまいりました。ああでもない、こうでもない、と右往左往しながらものを作ることは本当に楽しいことだと思います。

地域のものづくりに携わっている人たちに、どのように役立てるか、まだまだ模索中ですが、何かしらお役にたてるようになりたいと思っています。どうか今後ともよろしくお願いいたします。



●小宮山光治

前職を定年退職後は今までできなかった旅行や自宅周辺の片付け、家庭菜園などに時間を割けるようになりました。直近の旅行ではヨーロッパとフィリピンに行ってきました。次はH3 ロケットの打ち上げを見に種子島行きを計画しています。

また趣味レベルでドローンを飛ばして農地の作物生育状況の観察をしたりしています。今後ドローンの活躍の場は増えていくものと思いますが、個人的には農業の人手不足対策の一つの手段として活用できるのではないかと考えています。

仕事と趣味などワークライフバランスを保ちながら地域に密着した「ものづくり産業」と農業の維持、発展に微力ながら貢献ができれば幸いです。

仕事と趣味などワークライフバランスを保ちながら地域に密着した「ものづくり産業」と農業の維持、発展に微力ながら貢献ができれば幸いです。



令和7年10月 ブリュッセルグランプラスとパリノートルダム大聖堂



令和8年3月 フィリピン ダバオのイーグルセンターと豚の丸焼き

3 活動トピックス

中小企業大学校サテライトゼミ in 松本

『誰にも聞けないプロ営業としての心得』～営業の基本から実践ノウハウまで学ぶ～
2026年3月5-6日@ M ウイング



講師：佐藤 康二 氏
(株エム・イー・エル取締役) 福岡県出身 登山、スキー、マラソン

【研修の狙い】

経済が回復基調ともいわれる中で、私たち中小企業を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況。なかでも人材の採用と定着化、そして育成・戦力化については、組織の高齢化、世代交代、事業承継の観点からも、これまで以上に各社が注力する分野となっている。しかしながら社内では、生産性向上や人員効率化を進める中で、最低限の人員で事業を回さざるを得ない、という会社も少なくない。本研修では営業のプロとして、また営業部門を率いる営業リーダーとして、次世代につないでいく営業活動に取り組む上で知っておかなければならない営業職の基本的知識や商談スキルについて演習を交えながら学び、自社で実践できる持続可能な営業力強化策について学んだ。

業承継の観点からも、これまで以上に各社が注力する分野となっている。しかしながら社内では、生産性向上や人員効率化を進める中で、最低限の人員で事業を回さざるを得ない、という会社も少なくない。本研修では営業のプロとして、また営業部門を率いる営業リーダーとして、次世代につないでいく営業活動に取り組む上で知っておかなければならない営業職の基本的知識や商談スキルについて演習を交えながら学び、自社で実践できる持続可能な営業力強化策について学んだ。

【カリキュラム】

1. 営業とは何か：自社の売上・利益に直結する「営業」。この仕事に取り組むうえで、不可欠なプロフェッショナル営業としての心構えや営業活動の基本について学ぶ。
 - ・営業とは ・営業の基本的な役割、営業活動の基本
 - ・チーム営業
2. 顧客との信頼関係構築の進め方：「お客様のことを知らずして営業は成り立たない」顧客を知る術を学び、信頼される営業担当者とは何かについて理解する。
 - ・顧客に頼られる営業、顧客のパートナー
 - ・顧客からの情報収集と顧客課題の発見
 - ・信頼関係構築の大きな効果
3. 営業のプロになるために実践（演習）

自社・自分を知り、お客様を知って、営業の実践の場である商談の基本的ノウハウや、営業のチームづくりについて学ぶとともに、自社における今後の営業力強化の具体策について考える。

 - ・自社の強み・商品の魅力の見極め／ターゲット顧客の見極め
 - ・信頼関係構築に結びつく「商談スキル」
 - ・相互支援につながる営業のチームづくり
 - ・これからの自社の営業力強化策

（自社課題の抽出と実践法の検討）

商談のヒント…話す定石：さまざまな伝え方

■SDS

- ① S: Summary 要約・要点＝主張・結論
- ② D: Detail 詳細＝具体例・理由・根拠・経緯
- ③ S: Summary 要約・要点＝主張・結論

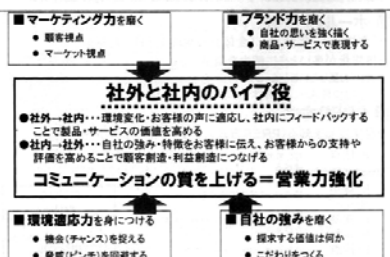
■CRF

- ① C: Conclusion 結論
- ② R: Reason 理由
- ③ F: Fact 事実・根拠・裏づけ

■3つにまとめる…「理由は3つあります」

- ・「3」が納得しやすい
- ・「3」がわかりやすい
- ・急な問いかけに！…とあえず「3つあります」で考える

社外の声に社内へ還元する営業力・コミュニケーション力



R 8 年度中小企業大学校サテライトゼミ開催予定

10月15-16日 人材定着の考え方・進め方

～これからの時代の3人材採用と定着の勘所～

ものづくり支援担当：豊口 稔 コーディネーター

5000 サテライトゼミ

人材定着の考え方・進め方(10月)

松本市開催

～これからの時代の人材採用と定着の勘所～

中小企業大学校 松本サテライトゼミ with 松本商工会議所 松本ものづくり産業支援センター

人事・総務

地域経済の発展は こちらへ

『「忙しいから改善できない」は本当か?』～工程改善セミナーを開催しました～ 2026年2月19日@松本情報創造館

2月19日、中信地域自動化推進ネットワーク主催による「工程改善セミナー」を開催し、地域企業28名の皆さまにご参加いただきました。

セミナーでは、単なる改善手法の説明ではなく、「なぜ改善が進まないのか?」「忙しい現場でも改善を進めるにはどうすればよいのか?」をテーマに、実際の中小企業での改善事例を交えながら考えていただきました。



特に好評だったのはグループワークです。

参加者同士で

- ・ 自社の改善事例
- ・ 改善が止まる原因
- ・ 現場の悩みや課題

について意見交換を行い、「他社も同じ悩みを抱えていることが分かった」「自社を客観的に見直すきっかけになった」「改善について改めて考えることができた」など、多くの感想が寄せられました。



またアンケートでは、「続編をぜひ開催してほしい」「もっと深く改善について学びたい」「属人化解消やAI活用、自動化についても知りたい」といった要望も多くいただきました。

改善は特別な技術や高価な設備導入から始まるものではありません。まずは身近なムダに気付き、小さな改善を積み重ねることが、働きやすく利益の出る現場づくりへの第一歩です。

松本ものづくり産業支援センターでは、今後も地域企業の皆さまが学び合い、交流できる場づくりを進めてまいります。



『小中学生向けプログラミング教室』

- ・将来世代の ICT 教育として、信州大学不破先生のご協力により、IchigoJam を用いた子どもプログラミング教室を実施しました。
- ・令和 6 年度に引き続き、プログラミングにセンサーやモーターを絡めたより高度な内容を扱うべく、年 2 回、3 日間の連続講座として実施しました。

対 象	受講者数	開催日
小学校高学年～中学生	4 組 5 名	7/12、7/13、7/26
小学校高学年～中学生	8 組 10 名	2/28、3/7、3/8



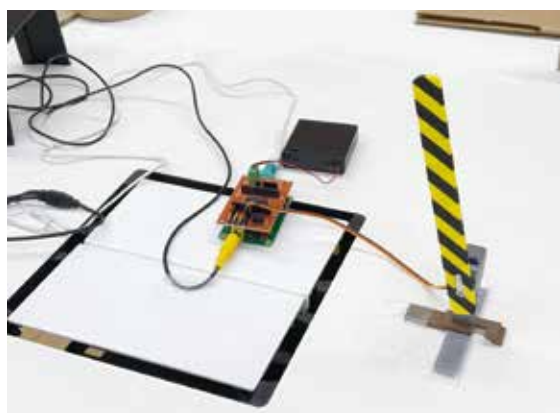
- ・センター独自のプログラミング教室では、ブロック・プログラミングとして低学年から使用されている Scratch に似た Microsoft Makecode、教育用ワンボード・コンピュータの micro:bit、ライントレースやぶつからない車を作る Tiny:bit を活用した講座を年 2 回（1 講座 2 日間）実施しました。例題を自分なりに改造することでプログラミングの楽しさや奥深さを体験することができました。

対 象	受講者数	開催日
小学校高学年～中学生	9 組 11 名	8/9、10
小学校高学年～中学生	8 組 9 名	3/21、22

- ・プログラミングの効果を発揮でき、より動作が楽しくなるように、3D プリンターを活用して、ツールや教材を作成しました。

サーボモーターのスタンド、人感センサーの覆い、踏切のバー、自動車のライトを自動点灯させるためのトンネル、電池を充電する際のスタンドなど、便利なパーツを検討・作成・活用しました。

「自動運転」や、いわゆる「ぶつからない車」の仕組みを体験でき、有意義なプログラミング教室となりました。



『生成 AI 活用』

(※日本電信電話ユーザ協会セミナー (2026.5.26) を参考)

1. 生成 AI の現状と中小企業が使うべき理由

生成 AI は「音声で操作できる」ほど簡単になり、単なる検索・要約から「自分で考える（推論・段取り）」フェーズへと進化しています。リソースの限られた中小企業こそ、以下の進化を活かして積極的に導入すべきです。

- ・ **マルチモーダル化**：画像・動画・音声などあらゆるデータを処理可能。
- ・ **最新情報の網羅**：リアルタイムのウェブ検索に対応。
- ・ **基本の 3 ステップ**：「①対話する」「②書く・作る」「③読む・まとめる」から活用を始める。
※主要 LLM（ChatGPT, Gemini, Claude 等）は好みで選んで問題ありません。

2. 使いこなすための実践テクニック

AI のポテンシャルを最大限に引き出すには、以下の運用が効果的です。

- ・ **プロンプト（指示）のコツ**：AI に対していきなり作らせず、まずは背景を伝える対話から始める。指示には [前提条件] [イメージ・例] [指示・制限] の 3 要素を入れ、コピーしやすい「マークダウン形式」で出力させる。
- ・ **音声入力の活用**：現代のスタンダードは「AI との音声会話」。頭の整理をせず思いつきで大量に入力できるため、思考整理に有効。スマホや高音質マイクが重要なツールとなる。
- ・ **精度の保ち方**：チャットが長くなるとゴミが溜まり精度が落ちるため、適度に「新規チャット」へ切り替える。

3. 業務活用のマインドセット

- ・ **完璧を求めない**：AI は間違えることもあるため、最終判断は人間が行う。
- ・ **「たたき台」として使う**：メールの代筆など簡単な仕事から任せる。2 ～ 3 割の完成度でも、ゼロから作るより業務効率は劇的に向上する。

『製造現場への 3D プリンター導入のススメ』

中小ものづくり企業にとって、激変する市場を生き抜くために「試作のスピード」と「現場の効率化」は不可欠です。そこで、高額な設備投資や外注費という課題を打破するゲームチェンジャーが「3D プリンター」の導入です。

近年、機器の低価格化と高性能化が劇的に進み、今や大企業だけでなく中小企業こそがその機動力を活かせる時代になりました。導入のヒントを、メリット・デメリット交えて解説します。



3D プリンター導入のメリット と デメリット

項目	メリット（導入すべき理由）	デメリット・注意点（直面する課題）
コスト・費用面	試作の外注費を大幅に削減 社内で完結するため、外注への支払いや送料をカットできます。	ランニングコストと環境整備費 材料・消耗品の維持費がかかるほか、換気設備などの初期投資も必要です。
時間・スピード	開発サイクルの圧倒的な高速化 設計変更から数時間～ 1 日程度で形にでき、リードタイムを縮小できます。	「ボタン 1 つ」では終わらない後工程 造形後のサポート材除去や研磨など、完成までに手作業の時間と手間がかかります。
生産・技術面	多品種少量生産と治具の内製化 金型不要で 1 個から作れるため、現場専用の治具やカスタム品を安価に作れます。	強度・精度の限界とスキル習得 金型成形品に比べ強度や寸法精度が劣ります。また、使いこなすためのデータ作成スキルが必要です。

営業・ 経営面	提案力の向上とノウハウの見える化 リアルな試作品で顧客へ即座に提案でき、熟練の技をデータとして残せます。	目的が曖昧だと「高い置物」化する 導入目的（試作か、治具か）を絞り込まないと、現場で使われなくなるリスクがあります。
------------	--	--

3D プリンターは、従来の加工技術を置き換えるものではなく、現場の「対応力」を拡張する新たな道具です。初期投資や技術習得への懸念はありますが、明確な目的を持って一步を踏み出せば、試作の高速化や治具の内製化といった確かな果実をもたらします。

印刷方法や使用するフィラメント（ひも状のプラスチック）、利用する機種により試作品の精度や仕上がりまでの所要時間が異なりますので、注意が必要です。

（※当センターでは、3D プリンターのお試し利用の準備をしております。お問い合わせください。）

ICT支援担当：野尻 和彦 コーディネーター

宮島 正孝 コーディネーター

中小企業総合展事業「テクニカルショウヨコハマ 2026」出展報告

松本市、松本商工会議所、松本機械金属工業会にご賛同いただき、二十余年に渡り販路拡大支援を目的に、松本ものづくり産業支援センターで販路拡大支援サポートを行って来ました中小企業総合展事業が、諸般の事情で今回の「テクニカルショウヨコハマ 2026【第 47 回工業技術見本市】」（開催期間：令和 8 年 2 月 4 日～2 月 6 日）をもって終了となりました。

中小企業総合展事業最後となりました今回ご出展いただきましたアースシステム株式会社、有限会社伊藤製作所、シナノカメラ工業株式会社、株式会社関一精機のご担当者様、これまで中小企業総合展事業にご賛同いただきご参加、ご協力いただきました企業、団体の皆様に厚く御礼申し上げます。



長野県松本工業高等学校への工具贈呈式、成果発表会

令和8年2月26日に、松本地域の工業団体やものづくり業界団体で構成される松本地域工業高校支援連絡会（事務局：松本ものづくり産業支援センター）から、地域のものづくり人材の育成のため、長野県松本工業高等学校で、今回15回目となる工具贈呈式と、同校の機械科生徒による成果発表会を実施しました。



アンケート調査実施

平成30年度からの10年間の松本市工業界の目指すべき方向性を定めた現行「松本市工業ビジョン」が令和9年に最終年を迎えるに当たり、次期「松本市工業ビジョン」策定に向け、工業現状調査の為、「令和7年度 松本市工業ビジョンの重点的推進事項に係る御社の現状と課題感に関するアンケート調査」を実施しました。

- ・実施期間：令和8年2月26日(木)～3月19日(木)
- ・依頼件数：403社・団体（ものづくり産業支援センター NEWS 配信、依頼文書送付先事業所）
- ・回答方法：ホームページ設置のオンラインページにPC、スマートフォンから回答を入力する
- ・有効回答：49社・団体（回答率12.15%）

回答集計結果報告（一部抜粋）（回答は複数回答可も含め、上位3位までを掲載）
回答いただいた事業所の概要

資本金	1,000万円以上 2,000万円未満	18社
	1,000万円以下	9社
	1億円以上 1億5,000万円未満	5社

年間売上高	1億円以上 5億円未満	12社
	5億円以上 10億円未満	8社
	50億円以上	7社

従業員数	10人以下	15社
	10人以上 20人未満	9社
	20人以上 30人未満	4社
	30人以上 40人未満	4社

- ① DX（デジタルトランスフォーメーション）の取り組みとして進めている事とその目的、進めていない場合はその理由（複数回答可）

行っている 取り組み	CAD/CAM	17社
	生産管理のシステム化	15社

進めている 目的	ペーパーレス化	14社
	作業負担の軽減・作業効率の改善	21社
	品質の向上	4社
	生産体制の安定	4社
	人手不足の解消	4社

D Xを積極的に進めない理由	対応する人手がない	15 社
	スキルを持った社員がいない	12 社
	時間的余裕がない	11 社
	コストがかかる	11 社

D Xの取り組みで最も多かった回答はC A D / C A Mの導入、次いで生産管理のシステム化との回答で、目的としては作業負担の軽減・作業効率の改善との回答が最多となった一方で、D Xが進められない理由としては、人手不足、スキルを持った社員がいないと言った人的な理由が見られる傾向があります。

② G X（グリーン・トランスフォーメーション）の取り組みとして進めている事とその理由、取り組み対象とその理由（複数回答可）

脱炭素・省資源の取り組み	再エネ設備の導入	15 社	進めている理由	自社の方針として	23 社
	設備等の高効率化	13 社		企業イメージの向上になる	14 社
	温室効果ガス排出量のみえる化	11 社		コストダウンになるから	10 社
取り組み対象	Scope1 自社の直接排出	11 社			
	Scope2 他社から供給された電気、熱・蒸気に伴う間接排出	9 社			
	Scope3 Scope1、Scope2 以外の間接排出	2 社			
お示しいただいた取り組み対象理由	自社の方針として	16 社			
	取引先からの要請	5 社			
	将来的な規制強化を見据えて	5 社			
	企業イメージの向上になるから	5 社			

G Xの取り組みでは再エネ設備等の高効率化による投資対効果が見えやすい身近な取り組みからはじめている現状と自社の方針として社会的責任（CSR）の果たし企業イメージの向上のため進めているとの回答が上位となった一方、主要取引先からの「CO2 排出量算定・削減要請」や「環境認証取得要請」等のケースも取り組む理由となっているようです。また取り組まない理由として「必要性を感じない」との解答も6社あり企業間の温度差がある結果となりました。

③ 【販路拡大】に関する質問です。販路拡大のために取り組んでいることはなんですか？

見本市・展示会への出展を選択された場合はその現状を、選択されなかった場合はその理由を教えてください（複数回答可）

販路拡大のために取り組んでいること	見本市・展示会への出展	20 社
	特に取り組んでいない	14 社
	S N S	11 社
見本市・展示会 出展状況	首都圏の展示会に既に出展している	18 社
	長野県内の展示会に既に出展している	9 社
	東海地域の展示会に既に出展している	5 社
見本市・展示会 不参加の理由	展示できるものがない	13 社
	自社製品に見合う展示会を選べない	3 社
	出展の費用対効果が見込めない	3 社
	社内人材のプレゼン・接客スキルが不十分	3 社
	人手不足	3 社

販路拡大への取り組みは4割強の事業所が、首都圏、長野県内、東海地域等の見本市・展示会への出展に取り組んでおり、何も取り組んでいないとした3割弱の事業所回答を上回る結果となりました。

また販路拡大にS N Sを利用しているとの回答も2割を超えています。当所の活動としては出展企業の支援に加えてI C Tサポートによる支援、サポートが重要になる結果となりました。

4 コーディネーターの紹介

専門性の高い6名（ものづくり支援担当4名、ICT支援担当2名）のコーディネーターを配置し、地域の中小製造業の皆様へのきめ細やかな支援を実施しておりますので、ご活用ください。

ものづくり支援担当



豊口 稔 コーディネーター

松本市工業ビジョン中間見直しの5つの重点推進事項を念頭に、企業の皆様と課題を共有して、商品開発から販路拡大まで支援を行います。また、関係機関と連携して新たな課題（人材、DX、GX）に対応、見える化支援 などに取り組んで参ります。

- ①企業間の強みを結び付け、新価値創造を支援
- ②食料品産業、伝統的産業などの商品開発・販路開拓支援
- ③各種展示会出展支援、新規市場開拓支援



相吉 一浩 コーディネーター

現在、多くの企業が業態を変革し、生き残る道を探さなければならない時代、自分自身も常に新たなことにチャレンジし、地域企業の皆様と、世の中になく製造現場を目指し、その先にはそれぞれの企業のお客さまの期待を超える、新しい価値創出の実現に向けて、支援してまいります。

- ①IE技術を活用し、製造力強化（工場／工程設計、自動化／合理化／省人化等）支援
- ②次世代ものづくり人材の育成
- ③企業連携による、新たな価値創出に向けた支援



根橋 聡 コーディネーター

この4月にものづくり担当のコーディネーターとして松本ものづくり産業支援センターに着任いたしました。松本工業ビジョンの重点項目を理解し、少しでも地域の製造業のお役に立てるよう勉強し、ものづくりの現場に足を運んでまいります。

- ①企業間連携、協業による新分野開拓の支援
- ②新技術開発、それによる新事業開拓の支援
- ③各種事業助成、活性化助成の申請の支援



小宮山 光治 コーディネーター

令和8年4月にコーディネーターに着任しました。前職では交流電力制御機器のマーケティング、設計、製造、生産管理と多岐にわたる業務に携わってきました。この経験を活かして地元企業の強みをさらに伸ばせるような事業戦略立案、実行の伴走支援をしてまいります。

- ①労働災害ゼロや生産性向上のための職場環境づくり（5S推進）支援
- ②ニッチ市場のニーズにマッチした新製品開発（開発力強化）支援
- ③ものづくり人材の育成（技術、技能の伝承）支援

ICT支援担当



野尻 和彦 コーディネーター

DX・デジタル化の推進を実現するため企業内業務の課題を把握し、ICTをうまく活用することによる改善策を検討・検証し課題解決できるようご支援していきます。

ICT※に関連する新しい名称・キーワード・製品情報など日々のニュースなどでも毎日のように報道されています。リスキングのテーマはもとより、企業活動に必要な技術や能力を高めていき、最終的には企業変革につなげていく分野になります。



宮島 正孝 コーディネーター

- ①DX活動に向けてデジタル化診断等を活用した現状把握と課題の整理
- ②アナログからデジタル化促進、デジタル化されたデータ分析・活用の支援
- ③経営者向け、一般社員向け、小中高生向けなど、対象別にセミナー、研修会等を開催
- ④サザンガクにおける企業活動の活性化及び起業、創業、事業発現支援
- ⑤ホームページ開設、ウェブショップ開設、OAソフト活用などICT関連支援
- ⑥ウェブやメールによる各種施策、研修会情報等の情報発信・情報提供など

※ DX(Digital Transformation) デジタル化により社会や生活の形・スタイルが変わること

※ GX(Green Transformation) 温室効果ガスを発生させる化石燃料から太陽光発電などのクリーンエネルギー中心へと転換し、経済社会システム全体を変革しようとする取り組み

※ ICT（情報通信技術）：Information and Communication Technology

5 サザンガクからのお知らせ

サザンガクは、2019年11月にオープンした地域のICT支援拠点です。どなたでもご利用いただける自由なワークスペース「コワーキングスペース」、新規創業や地域進出の拠点となる「サテライトオフィス」、企業の人材不足と働き手をつなぐ場「テレワークオフィス」の3つの機能で、松本エリアのビジネス活性化をめざしています。

松本の持つ潜在力を最大限に引き出し、
地域全体の活性化

失敗を恐れず挑戦できる文化を育み、
地域の人々が主体的に未来を創る



一人ひとりの「やってみたい」を尊重し、
学び合い、支え合い、共に形にする

松本で生まれる小さなアイデアや挑戦を、地域の力に変える拠点

サザンガクが推進する取組み

○スタートアップ創出、起業支援

・松本市スタートアップ推進事業プログラム総称を「松本道場」とし、

①起業家イベント「ローカルヒーロートークセッション」

②起業プログラム（一般コース／上級コース）

③中小企業向け新規事業開発プログラム をサザンガクで実施しています。

・信州スタートアップステーション（SSS）／長野県よろず支援拠点

長野県や公益財団法人長野県産業振興機構と連携し、起業創業、事業運営の専門相談窓口を設置しています。

○デジタルサービス創出、デジタル人材育成

デジタルで地域課題の解決や新しい価値の創出を目指す、産学官の連携組織「デジタルシティ松本推進機構（DigiMAT）」とサザンガクが融合・連携し、デジタルサービス創出、デジタル人材育成を行っています。7月からは、高校生を対象とした地域のデジタル部を共同設置し、地域の若者の「学ぶ」「つくる」「実装する」を支援するプラットフォームを運営しています。



サテライトオフィス

デジタル技術分野をはじめとする創業や企業誘致の場として、全16区画をご用意しています。空き状況は、サザンガクまでお問い合わせください。

<サテライトオフィス使用料 ※税・共益費込>

・個人ブース：月額17,000円

・複数人区画：月額43,500円～（区画の規模により異なります）



テレワークオフィス

採用コスト、社員の流出、人手不足にお困りではありませんか？

事業者の皆さまのアウトソース先として、バックオフィス業務から、各社の固有業務まで幅広く対応いたします。

・登録ワーカー20名程度

・プライバシーマークを取得した万全のセキュリティ体制

・専任のディレクターが業務設計から構築・運用までのワンストップ提供

・課題やゴールに応じて、最適なBPO・アウトソーシングサービスをご提案



<主な受注業務>

- ・バックオフィス業務
- ・校正
- ・Web サイト制作、更新作業
- ・資料作成
- ・広告、バナーデザイン
- ・動画作成
- ・データ入力
- ・SNS運用
- ・データ加工
- ・ECサイト運用
- ・キャンペーン事務局
- ・CAD図面作成 etc.

案件の大小、スポット・継続に関わらず様々な業務を請け負っております。
まずはお気軽にご相談ください。

コワーキングスペース

コワーキングスペースでは、落ち着いたワークスペースや集中ブース、ミニ会議室、壁面のホワイトボード、リラックススペースなど、様々な働き方をする方それぞれにピッタリな空間を提供いたします。 時間単位でのご利用も可能ですので、ぜひお気軽にご利用ください！

<コワーキング料金表（税込）>

ドロップイン	
2 時間	500 円／学生 250 円
1 日	1,000 円／学生 500 円
定期会員	
一か月	10,000 円



<コワーキング設備>

- ・Wi-Fi
- ・プリンター複合機（別料金）
- ・モニター貸出
- ・ホワイトボード
- ・シェアキッチン etc.



<サザンガクのセミナーにご参加ください！>

サザンガクでは、働く方のスキルアップ、業務効率化につながる様々なセミナー、ワークショップを開催しています。無料で受講いただけますので、ぜひお気軽にご参加ください。最新の開催予定は、サザンガクのホームページ、SNSをご参照ください。また、企業への出前講座もお引き受けしますので、ご希望の場合はご相談ください。

<過去の開催実績（抜粋）>

- ・SNS 運用セミナー
- ・生成 AI 勉強会
- ・ビジネスに必要な仮説検証入門ワークショップ
- ・データ活用とマーケティングセミナー
- ・今求められる AI 活用人材とは？ etc.



これまで開催したイベントのレポート等はコチラ→

https://note.com/33gaku_note



お問い合わせ

〒390-0874 松本市大手3丁目3番9号 サザンガク

電話：0263-33-0339 メール：info@33gaku.jp

6 松本市からのお知らせ

ものづくり事業者の皆さんへ様々な助成、補助制度を用意しています。詳細については、商工課工業振興担当までお気軽にお問い合わせください。

中小 地域中核

製造業等活性化支援事業助成金

大学等研究機関との共同研究や新分野への進出、生産工程等の自動化等企業の新たなチャレンジを支援します。

- ◇産学共同研究事業・新産業創出事業・自動化推進事業の場合
助成率 1/2 限度額 100 万円 1 事業 3 回まで
- ◇地域中核企業※が上記事業を行う場合
助成率 2/3 限度額 300 万円 1 事業 3 回まで



中小 地域中核

製造業等販路拡大支援事業補助金

展示会の出展や海外向け EC サイトの開設に際し、その費用の一部を補助します

- ◇国内向け
補助率 10/10 限度額 25 万円
- ◇海外向け
補助率 10/10 限度額 50 万円
地域中核企業※の場合は限度額 100 万円



中小

製造業等人材育成事業補助金

人材のスキルアップに係る研修費用の一部を補助します。

- 補助率 1/2 限度額 2.5 万円（人材 1 名につき）
1 事業者合計 10 万円まで



R6～
対象となる
研修を拡充！

地域中核

地域中核企業支援事業補助金

地域中核企業※が事務所・工場等を新・増設する場合、その費用の一部を補助します。

- ◇施設等整備事業
補助率 1/10 限度額 500 万円
- ◇施設等設置事業
3 年間分の固定資産税相当額 限度額なし
（施設等整備事業を活用し取得したものに限り）



ヘルスケアサービス等実用化 検証事業助成金

ヘルスケアサービスに係る実用化検証を行う場合、その費用の一部を補助します。

- 助成率 3/4 限度額 100 万円 1 事業 3 回まで



中小

空き工場等活用事業補助金

市内の空き工場を活用し、製造や新製品開発等を行う場合、賃借料の一部を補助します。

- 補助率 1/2 限度額 96 万円（8 万円 / 月 × 12 か月）



※地域中核企業…地域未来牽引企業、県から地域経済牽引事業計画の承認を受けた企業等

中小

外部人材活用促進事業補助金

経営改革※¹ のために外部人材※² の雇用等を行う場合その費用の一部を補助します。

- ※¹ 新製品・新技術の開発、新分野への進出、デジタル化・脱炭素化の推進等により、企業の成長促進を図ること
- ※² 市外に住所を有し、事業開始前に、補助を受ける事業者による雇用等が行われていない者

- ◇外部人材に係る給与等
補助率 1/2 限度額 90 万円（15 万円 / 月 × 6 か月）
- ◇外部人材に係る滞在費
補助率 1/2 限度額 10 万円
※合計 100 万円まで



「地域の人事部」
または、「信州100年企業
創出プログラム」への
参加が必要です！

脱炭素型大規模投資支援事業補助金

ゼロカーボン産業に取り組むために必要な建物の新設・増設・移設、償却資産の取得をするための大規模投資（3 億円以上）を行う場合、その費用の一部を補助します。

- 補助率 対象経費の 3% 限度額 3,000 万円



企業事務所誘致事業補助金

設立後 3 年以上の法人又は認定スタートアップが市内に新たに事務所を賃貸で設置する場合、その費用の一部を補助します。

- ◇賃貸の場合 補助率 賃借料の 1/2
限度額 300 万円（3 年目は 150 万円） 3 年間
（共用施設、公的機関・学術研究機関設置施設は対象外）



松本市工場立地法準則条例の施行

令和 8 年 4 月から敷地面積 9,000㎡以上又は建築面積 3,000㎡以上の工場立地法で対象となる工場について、法定緑地率等を緩和する条例を施行しました。緩和の概要は次のとおりです。

環境施設 面積率	これまで 25%→	工業専用地域、 工業地域等	10%	準工業地域	15%
緑地率	これまで 20%→	//	5%	//	10%

お問い合わせ：

松本市役所商工課 工業振興担当 /
健康産業推進担当

TEL:34-3270 FAX:34-3008 /

TEL:34-3296 FAX:34-3297

〒390-8620 松本市丸の内 3-7

MAIL:shoukou@city.matsumoto.lg.jp /

kenkou-sangyou@city.matsumoto.lg.jp

7 松本商工会議所からのお知らせ

国の補助金情報

松本商工会議所では国等の補助金の申請に向けた支援を行っております。詳細については、中小企業振興部までお問い合わせください。

小規模事業者向

小規模事業者持続化補助金〈一般型・通常枠〉

自社の経営を見直し、自らが持続的な経営に向けた経営計画を作成した上で、販路開拓や生産性向上の取組を支援する制度で、広告宣伝、ECサイト構築、店舗改装、業務効率化のための設備導入などが補助対象となります。



- ◇補助金上限は最大 250 万円！ 通常枠… 50 万円
賃上げ実施で…+150 万円 インボイス転換で… +50 万円
⇒ すべて活用で【最大 250 万円】
- ◇補助率：2/3（赤字で賃上げ実施なら 3/4）

中小・小規模事業者向

新事業進出・

ものづくり商業サービス補助金

革新的な製品・サービスの開発や新市場・高付加価値分野への進出を図るため、生産性向上や付加価値創出につながる設備投資、システム導入などの取り組みを支援する制度です。



- ◇補助金上限は最大 9,000 万円！
革新的新製品・サービス枠は 3,500 万円
新事業進出枠、グローバル枠は 9,000 万円
（※上限は従業員数に応じて、賃上げ特例の場合）
- ◇補助率：1/2 ～ 2/3 ※詳細はお問い合わせください

人材戦略策定にご活用ください



企業経営者・人事のみなさま

人事の大問題 **確保** **育成** **定着**

あなたの会社経営を地域でサポート！

企業の人材課題を地域で解決

「地域の人事部」とは、地域の企業群が一体となって地域の自治体・金融機関・教育機関等の関係機関と連携し、将来の経営戦略実現を担う人材の確保（兼業・副業含む）や域内でのキャリアステップの構築等を行う総合的な取組です。



構成機関：松本市産業振興部商工課・松本ものづくり産業支援センター・八十二長野銀行・長野県信用組合・松本信用金庫・信州大学・松本大学・MEGURU・KOKO・松本市内企業・専門家 等

お問い合わせ：松本商工会議所中小企業振興部 TEL：32-5350 FAX：32-1482 Mail：soudan@mcci.or.jp monodukuri@mcci.or.jp

8 (公財)長野県産業振興機構 松本センター

1. 所在地

〒390-0852 長野県松本市島立1020 松本合同庁舎2F
TEL: 0263-40-1780 FAX: 0263-47-3380
Mail: nice-matsumoto@nice-o.or.jp
ホームページ: <https://www.nice-o.or.jp>



2. 組織

長野県産業振興機構は、2022年4月に長野県中小企業振興センターと長野県テクノ財団が合併し発足した、長野市の本部と県内5地域のセンターで活動する産業支援機関です。

松本センターは、松本市、安曇野市、塩尻市、大町市、北安曇郡、東筑摩郡および木曽郡の地域産業を支援・サポートしています。

3. メンバー構成 (2026.6月現在)

センター長、テクノコーディネーター、地域連携コーディネーター、受発注取引推進員、県産品コーディネーター、アシスタント

4. 設立目的

技術革新による地域産業の高度化と産業創出を促進するとともに県内企業の経営革新及び経営基盤の強化等を支援し県内産業の発展と地域経済の活性化に寄与します。

5. 業務内容

【相談支援事業】 企業が抱える経営上の課題や研究開発に係る技術的課題等について、相談支援を行います。

【産学官交流事業】 中信地域の地方自治体・商工団体・関連機関、県内大学・高専・公設試等が一堂に会するアルプス広域コーディネーター連携事業を運営し、また大学・高専・企業との産学官連携交流事業を実施します。

【新産業創出・経営革新支援事業】 新分野進出や新技術開発などの新たな展開を進める企業を支援する研究会事業を企画・運営するとともに、他機関と連携して新産業創出に資する事業に取り組みます。

【共同研究等推進事業】 提案公募型等研究開発プロジェクト導入支援や運営、フォローアップを行います。

【マーケティング支援事業】 専門の推進員等を配置し、受発注取引に関する相談、斡旋、各種商談会・展示会等への出展支援やマッチング等のサポートを行います。

【人材育成事業】 新技術・新製品の研究開発や実用化に資する技術人材の育成やものづくり現場に必要な最新技術の導入支援等により、地域産業の活性化と高度化を促進します。

6. これから開催するセミナー・講演会

10月：社員の共感力と共創力がビジネスを変えるー「デザイン思考ワークショップ」

11月：不良未然防止と慢性不良解決の実践的「工程 FMEA 講座」

11月：「産学官連携交流会 in 松本 2026」

ホームページはこちらから



9 松本ものづくり産業支援センターからのお知らせ

令和8年8月1日からセンターの名称が変わります

背景

市が注力するデジタル人材育成、新しいデジタルサービス創出を一層加速・強化するための体制見直しです。

組織として三部制になり、対象領域も拡大することから、令和8年8月1日から「**一般財団法人 まつもと産業イノベーションセンター**」に名称変更となります。

組織体制変更の概略

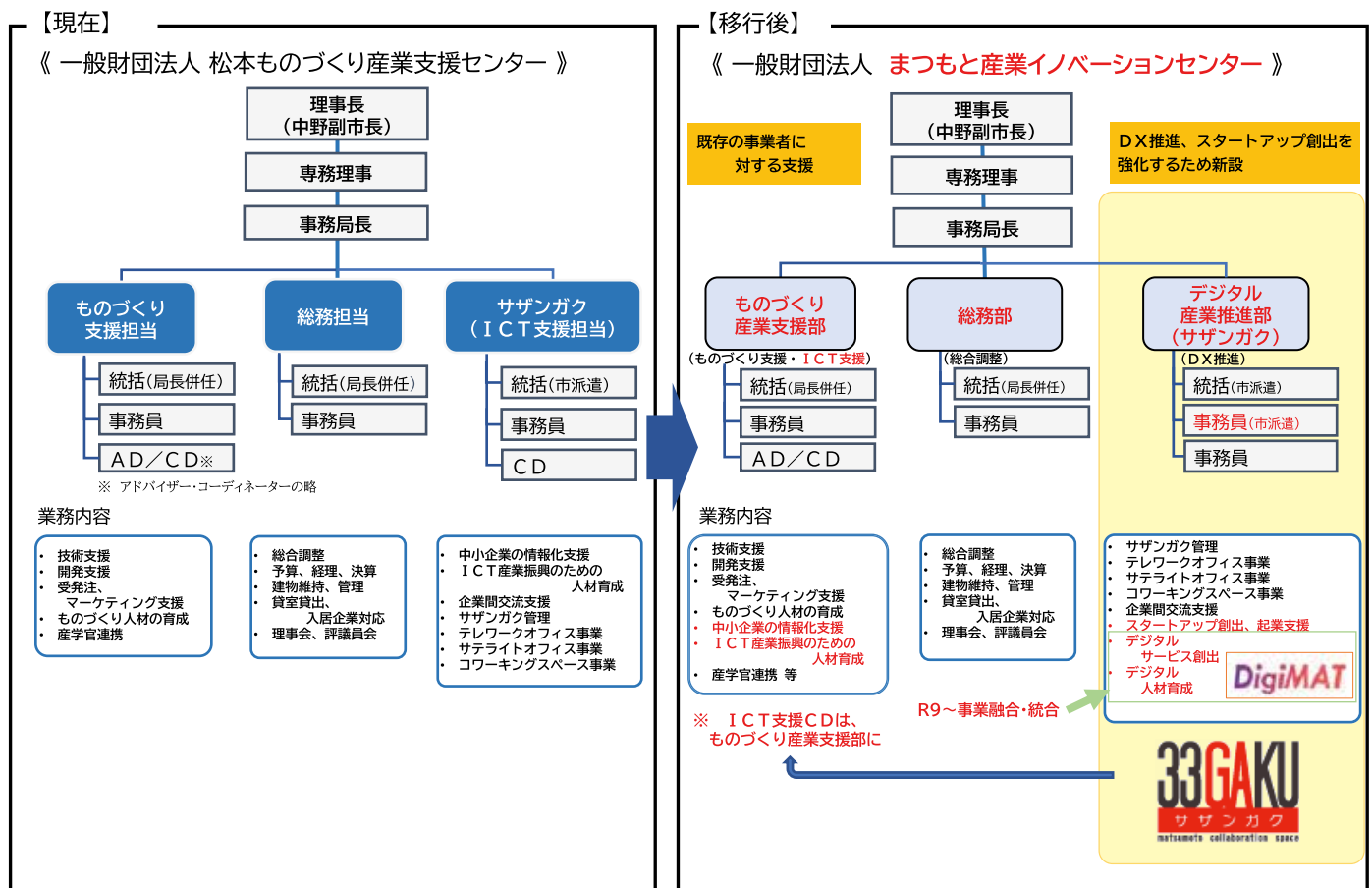
(1)松本の「デジタル」自走強化のため、市のデジタルシティ松本推進機構(DigiMAT)の機能を移管し、サザンガクを中心としたデジタル産業推進部を新設します。

(DigiMATの業務はサザンガクの業務と親和性があり、一層効率的なオペレーションが期待されます。サザンガクではスタートアップ支援にも取り組みます。)

(2)ものづくり支援は、ICT/DX支援機能(コーディネータ)をこれと一体化させることにより、新たな取り組みを交えた内容充実化を図ってまいります。

これまで以上に当センターをご活用いただけますよう、宜しくお願い致します。

組織体制（組織図及び業務内容）





一般財団法人

松本ものづくり産業支援センター

〒390-1242 長野県松本市和田 4010-27

☎ 0263-40-1000 FAX: 0263-40-1001

HP: <https://www.m-isc.jp/>



センターNEWSやメールマガジンのお申し込みはこちらから



サザンガク

matsumoto collaboration space

〒390-0874 長野県松本市大手 3-3-9

☎ 0263-33-0339 FAX: 0263-33-0305

HP: <https://33gaku.jp/>

- ☐ コワーキングスペース ☐ サテライトオフィス
- ☐ テレワークオフィス

コワーキングスペースのご利用案内

開館: 平日 午前 10 時～午後 7 時

ご利用料金: (税込)

ドロップイン 500 円 / 2 時間

1,000 円 / 日

月会員 10,000 円 / 月



関係機関 (市外局番 0263)

松本市 産業振興部 商工課 工業振興担当 / 健康産業推進担当

TEL34-3270 FAX34-3008

TEL34-3296 FAX34-3297

松本市 産業振興部 農政課

TEL34-3221 FAX36-6217

松本商工会議所 中小企業振興部ものづくり支援グループ

TEL32-5350 FAX32-1482

信州大学 研究推進部 産学官地域連携課

TEL37-2087 FAX37-3049

(公財) 長野県産業振興機構 松本センター

TEL40-1780 FAX47-3380 (長野県松本合同庁舎内)

松本ものづくり産業支援センター NEWS
第 16 号 (令和 8 年 7 月)
発行 / 松本ものづくり産業支援センター
印刷 / アサカワ印刷株式会社